

平成21年度米子市美術館協議会議事録（概要）

議事の概要

大塚課長補佐

議事（2）米子市図書館及び米子市美術館増改築推進プロジェクトについて説明

長谷川課長

整備内容説明

委員

実は、一昨日、課長さんの方から今日の話に対するご説明がありまして、とにかくこれから本格的に軌道に乗せたい。22年度予算のこともありますが、市民や使われる方や専門家・芸術家の方等合わせて意見を聞きたいということでした。

説明にありましたが、スペースを広げるという話です。玄関の所を前の方へ出して、事務室、館長室の所の屋根が伸びるといいますか、柱が出ているところまで広げる、という事。それから、階段の下のスペースがガラス張りになっている。あそこを少し外に出して休憩室にするという話。それから、空調を入れ替える、倉庫を収蔵庫にして他に倉庫を移すという話。エレベータは入口のに入ったちょっと横側に付けたいという話。いわゆる小規模な改築、改造をして、もう一つ、展示室は図書館と一緒に建てた建物の中に一つ持ちたい。特に二中は壊して、あそこに建てても大変だから、空き地、庭にして、噴水を壊して、そこに図書館を広げる。そこに展示室の模型みたいなものを一つ造る。それから展示室にはもちろん壁を動かすのは大変なので、天井に仕切り板をつけるという、そういう話が今説明されたことだと思っています。

委員の皆さんも色々意見があると思いますので、聞いていきたいと思いますがどうですか。

長谷川課長

そうですね、決まったわけではなくて、これから色々な方からの意見を集約しますので、今日は出席していただいた委員の皆さんで、ご意見、ご質問ございましたらそれは承りたいというふうに思っています。

委員

使用している美術館職員さんはまだ色々な思いがあると思います。使っている者にしか分かりません。先生方もこうありたいという意見はあると思います。図書館も共用してよいのか、いけないのか、そういうことも含めてひとりずつ意見を聞きましょう。どうでしょうか。

委員

二中を壊して、そこに建物を増設するというような話を聞いていましたが、あそこは庭になるのですか。

長谷川課長

今の段階では、はっきりとどういう具体的な景観にするかということまでは出ておりません。先ほど委員が言われたのは、文化協議会の方からの要望の中で、とりあえず二中の建物は壊してくれ、それと美術館が狭いというご意見を聞いております。突き詰める所、一つの選択肢としてあったのは、狭い部分を補う建物を二中の跡に建てようかというような予想、あるいは期待もあったのではないかという風に考えております。それらについては、まだ、これから実行していく必要があるというのが今の考え方なので、もう少し具体的にそこら辺での全く検討の余地がない、というところではありませんが、今の段階ではやはり、増築したら増築したで、その導線の問題がございませぬ。管理の問題もあります。本当にそこにどれだけのものをどうするかというのもまたこれからの議論のなかで検討課題だということでは理解をしております。図書館の増築場所をどこにするかというのは、はっきり決まった訳ではございませぬ。一つには噴水を残して、今の正面玄関のスペースにするというのもございませぬ。また、今言われるように、噴水を全部撤去して、そこに図書館の増築部分を持ってくるという案が二つそれぞれ出ています。

委員

そこを分室みたいな形ですか。美術館の分家、分身みたいなものですか。

長谷川課長

そうですね。

委員

美術館を増設してもらって、二中の方を分家にした方が良いですよ。共用にね。

委員

ずっと色々考えられてこういう結論が出たということは、私たちが今何か言って変更になる可能性は考えないと思いますけども、何か一番初めの話とか、こうすればいいとか前聞いたこともありますので、その事をちょっと質問したんですが、今委員さんの公約という事ではないんですよね。出来ればそれが理想だったとは思いますが、出来なかつたら財政も色々あると思いますし大変だと思いますので、変えてくれ、ということはそういう訳ではないのですけども。そういうことをクリアしながら今の状態になったということでしたら了解します。

委員

今後のことについてですが、今まで繰越されてきた問題であるし、委員さんのちょっとした感想のようなものくらいは聞いておかないと、今日の意味もないんじゃないかなと思います。

委員

あれを壊すのに 4 千万以上かかるだろうというのもあるし、建てるならもうちょっと広く、他との連携から考えると・・

委員

私は今年初めて参加させてもらいましたが、最初の話をもって非常に新鮮に聞こえました。図書館と美術館が一体になるんだなと思って、これは素晴らしい発想だなと思って、感心して聞かせていただきました。実際には中々すぐにはとかないというのもありましたけれども、教育委員会が今一番力を入れてやっておられますが、やはりそういう教育という立場の点で、若者がやってくる、訪れることで潤うということは素晴らしいかのなというふうに思っています。今回は別館が出来るというそれだけでも一つの新しい試みだと思います。

委員

ようやく具体的なものが見えてきて良かったなと思います。説明でよく分かりました。予算ですけども、10 億円というのは合併特例債の方から回ってきた予算なのか、必要な色々な財源を考え合わせてなのか、これが限界という見方なのか聞きたい。

大塚課長補佐

今の質問ですが、10 億円ありき、という訳ではございません。一つには当然実質公債費率とか国がかけている予算枠という物は財源にはございますので、その様子をみながら、積み上げてきたものが、たまたま今の計算の積み上げになったという形です。ですので、いくらでも使ってよいという状況では正直ございませんので、10 億円が限度だよ、というだけで、実質、色んな状況の中で、削れれば削りたいというのが市としての考えというふうに理解していただいた方が良くと思います。

委員

図書館の耐震診断結果次第で更に、予算が削られるかも知れないという説明があったと思うのですが、今回の増改築で今後、何年くらい使っていけると考えているのでしょうか。

大塚課長補佐

今言われましたように、図書館の耐震診断、専門家の先生もおられますので、簡単に説明申し上げますと、ここは非常に軟弱地盤になってございます。現在の図書館であると、深さ約 50m の杭が 50 本位下に埋めてあるという特殊な構造になってございますので、そういうことからコスト的なものが非常にかかるというものです。ただ、ここは市の中心地、例えば 50 年経っても 100 年経っても米子市がある限り、ここは中心地ということは変わらないという観点に建てておりますので、今の建物をとりあえず、このコンクリート構造が持つ期間、概ね 50 年とか 70 年と言われておりますが、そういう意味で、少なくとも今まで新築してから多少の補修を加えながら、図書館は 30 年、ここ（美術館）は 25 年持っておりますので、それと同じだけ持たせられるよう

な感覚で作り直したいということでございます。ただ、こうやってしましますと「もうこれ以上広げないのか。」という発想が出るかと思いますが、財政状況が良くなって、美術館関係者のみなさんの気分が盛り上がれば、当然、よそに出て大きな物を建てるという可能性はございます。それは市長さんや、先々の市長さんの考えもでございます。ただし、今それだけの全面リニューアルをしてここに建物を置いていても、ここは必ず生きる建物ですので、30年先、例えば10年先に建替えるということになっても、ここを捨てるということは絶対にありませんので、いろいろな手法と言いますか、活用の手法がこの位置でこの建物というものが必ずございますので、そういう観点に立って、この建物は30年でも50年でも使えるようなりリニューアルを、今の時期はしておきたいというのが基本的な考えでございます。

長谷川課長

いろいろな委員の方に具体的な説明を今日初めてする中で、いろいろ聞きたいことや意見というのはこれから出てくると思います。今日ご説明しましたのは、あくまで今の時点で市が考えているプランだという理解で、今日話をしたからすべて承認されたというようには私たちは受け止めてはおりません。利用者の方からも、もっといろいろな意見が出ると思いますので、一言ずつコメントをいただいて、次の議題に入りたいと思います。

委員

一応おぼろげながら、全体の姿が見えかけたかなと思います。例えば、耐震診断結果によってもずいぶんガラッと動いてしまうと思います。今、耐震診断の基準なんて日本ほどうるさいところはないと思います。これをクリアするためには相当なことも考えられます。その中で、例えば中の噴水を撤去して、そこにどういうものを建てるかというのも、これも決定的ではないですし、その中で図書館との共用という部分をとっても、どこをどういう形に利用するかということに至るまでは、ずいぶん時間がかかると思います。この特例債、言ってみれば借金ですが、どれぐらいで何十年返済になるのかどうか、その中で後の財政も全部関わってきて、ずいぶん動くような気がします。さきほど委員もおっしゃったように、段階的に煮詰まった時点で考えるということではなくて、具体的なものをその都度、説明協議をされる場を設けてほしいなと思います。

委員

予算のことは特にはないですが、自分の中で一体化に整備するというときにあるイメージでは、例えば、図書館と美術館が繋がって、真ん中に入口があって、そこに共用のロビーがあって、右を向けば図書館（もしくは美術館）左を向けば美術館（図書館）そういうことになればいいなと自分では思っていました。そういうことではないようですので、自分の感じた一体化というものとは違ったかなという気がします。裏の道の建物の跡地を壊して、新たに展示室だとか休憩室を作るという話もありましたが、例えば秋の文化祭でも空室がかなり出ているという状況で、そういうことをしても、またそれを作っても空けておくのかなという気持ちもあり、特に壊してまでも作る必

要はないのではないかと思います。それと、さっき会長も少し触れられたのですが、9号線の方から入ってくるのですが、あそこも一緒に整備をしてもらったらいいと思います。今の状況は路地に入っていく感じがして、美術館とかそういった施設に入っていくにすれば、少しお粗末ではないかなという気持ちがあります。もしも出来るのであれば、その部分も一緒に整備してもらえたらと思います。

委員

今の委員の意見と同じで、私と同じことを考えていらっしやいまして、美術館の表示っていうのがすごくわかりにくいんです。さっきも通ったときに思ったのですが、ポスターも両側に1枚ずつ貼ってあるのですが、『人間だもの』という相田みつをさんの物と、新協展ですが、とても小さくて見えにくいですし、まして車で通ったら瞬間ですし、もっと美術館はここだというわかりやすい表示をしていただけたらと思います。それから、さきほどもおっしゃったのですが、図書館との共用ということですので、私も図書館と美術館が近いので、廊下がガラス張りになって繋がっていて、庭を眺めながらちょっと休憩が出来るようなそういったスペースがあったらいいと思っていました。今日、話を聞いて本当に嬉しく思いました。今までいろいろ美術館の方がお話をされていましたけど、また話だけだと思っていましたが、今日、市からこういったお話をいただいて、これが本当になるんだと嬉しく思っております。

委員

私も、今のところ市が考えているプランとして先程お話があったので、そうしたらここが変わることがあるんで状況が変わっていくその一つの過程なのかなあと思って話を聞きました。それともう一つは、さきほどの特例債についてですが、それは返さなくていいお金ではなくて、借金というところが私にとって気になりました。返せるのかなと、とても気になります。私としては、ここがお洒落な空間になって、図書館との行き来が一回一回靴を脱いで行かなくても、一体化して廊下があってずっと行けるようになればすごく嬉しいです。絵画を見た後、ちょっと画集を見たいというときに、ずっと行ける場所だったらとても有難いなと思います。一回靴を脱いで、向こうのドアを開けて雨に濡れて行かなくてはいけないと思うと、なんとなくおっくうな気がしますので、そういう場所だったらよろしいかと。これで見るとやはり存在感がないと私も感じました。出来たら本当の意味で、お金が10億もかかるとは思わなかったですが、円形で全部繋がるようにしたら、どのくらいお金がかかるかわからないですね。どうしたらいいかわからないくらい。意見としてはここが町の真ん中の、お洒落でちょっと休憩が出来るような、木もすごくきれいになったし、あそこに行くのが楽しみというような場所になったらいいなと思います。

委員

これを作られたっていうのは、今説明がありましたように、文化創造計画検討委員会によってこの文章が出来たのですか。

大塚課長補佐

文化創造計画の検討委員会ですと揉まれてきた経過がございます。その検討経過を見せていただいて、更にプロジェクトチームでそれを揉ませてもらって、出来る案を作り上げたということでございます。

委員

あの、検討委員会というのはどこの部門から出たのですか。

長谷川課長

文化創造計画検討委員会は、今の新市町づくり計画の中の、伯耆の国よなご文化創造計画ということで、図書館、美術館、歴史館の整備、更に上淀廃寺の整備、更に埋文センターとかいくつかの複数の事業を計画のプログラムの中に取り込んでおりまして、その中で具体的に、図書館・美術館整備を推進するために特化したのが、このプロジェクトです。ここで具体的なプランニングの案を揉んで、作り上げたのがこの計画化の整備計画案です。

委員

私が言いますのは、検討委員会は具体的に、どなた方が出ておられて検討委員会となっているのかということです。

長谷川課長

委員につきましては、民間のいろいろな有識者ということで、公募委員もいらっしゃいます。

委員

文化協議会の関係の方と後援会の関係の方が出ておられるような気がしません。・・・

長谷川課長

文化創造計画検討委員会というのは、重複するようですけど、各町づくりの方もいらっしゃれば、いろいろなジャンルの専門家の方もいらっしゃいます。いわゆる学識経験者と言われる方もいらっしゃいます。全部で十何人ただ、その委員会においては文化創造計画全般についての、大まかな包括的な事業計画全体についての議論審議というものをさせていただいております。今日、案という形で説明させていただいたのは、今後開かれる委員会の中でもこの内容を、文化創造計画検討委員会のみなさんにもご説明していく予定です。

委員

少し前に、美術館の前の庭を撤去して市役所の食堂をこちらに持ってくるという話がありましたが、あれはどうなったのですか。

長谷川課長

今ここでは私は十分に知らないのですが、一つの提案として聞いておりますのが、市役所の食堂が地下にございますが、そこから外に向かう導線を作って、この噴水の広場からも出入り出来るような構造にすると、地下にある食堂のメニューが、アウトドアのカフェみたいな形で出来るという提案は聞いております。ただ、結果的にそれがどうなるかというのはまだ私も確認しておりません。

委員

ではこれは、市民の意見なのですね。

長谷川課長

そうです。

委員

今お金の問題が出ましたが、8億～10億というのは、ここにはいくら要る、ここにはいくら要るといふのを計算して出した額なのですか。ただ8億から10億ぐらいだろうということなのですか。

長谷川課長

いいえ。基本的にこの原案をベースにして、試算した数値で積み上げた結果です。ただ、ここに書いてあります耐震診断の結果によって、更にそれにいくらかかるかっていふのは見込みが出ていませんし、もしも太陽光発電を導入すれば、今1キロワットの発電に100万くらいですので、それらのことが絡んでくると、やはりこの範囲の額を前提にして充実させていきますよということでございます。

委員

もう一つ。10ページの整備スケジュールと11ページにある、美術館基本設計と美術館実施設計というの、どう違うのですか。

長谷川課長

簡単に言いますと、具体的に絵を描くのが基本設計である。それを実現させるためにきちんとした設計図を仕上げるのが実施設計というように理解いただきたいと思います。ですので、実施設計が出てこない、最終的な金額の積算というものは確定してきません。

委員

要するに、大まかな説明を統括すると、20年後、建物は壊すんだけど、図書館や美術館を拡張するために建物を建てることはないということですね。

長谷川課長

今の段階ではありません。

委員

今の会長さんの説明もあったように、実施しようとしているのは、事務室を広げること。玄関を広げること。その横の階段の下を広げて休憩スペースを作る。倉庫を壊して収蔵庫を拡張する。倉庫は別のところへ移動する。構想としては、美術館全体は、増築という形ではなく、改築ということになるのですか。

長谷川課長
そうですね。

委員
その計画で10億かかるのですか。

長谷川課長
いいえ。8億～10億は、図書館美術館全部をひっくるめて総額の積算したものが、8億～10億ということで、今11ページの資料を見ていただくとわかるように、仮に今の原案を実施したときに美術館は工事費で2億1千万、更にそれにかかる基本設計、自主設計、そういったものをもろもろ考えましても2億5千万くらいで、今の事業が実現出来るのではないかと見ております。さきほどからずっと申し上げておりますのは、基本的にこちらのほうで検討に検討を重ねて一つの案として固まっておりますので、これから文化団体や一般の市民、いろんな声を踏まえる中で、最終的な成案として、また整備案というものを固めていきたいというのが一点ございます。それから高増委員が言われますように、やはり今日だけで終わりということではなく、いろんな方のいろんな意見を踏まえる中で、またこういう会議の場では、途中経過なり結果というものはご報告しながら作業を進めたいと思っております。そういうことでご理解いただきたいです。あと付け加えさせていただきますと、特例債につきましては、基本的には借金でございます。ただ、言ってみればこの中の3分の2はいわゆる交付金として国の方から助成があるものでございます。借金であると同時に、これが使える年度が平成26年度まで、合併後10年というスパンの中でこういった借金かつ、3分の2を補填してもらえというような制度を活用しながらこの事業を進めていこうというのが、現時点での考え方ということでご理解ください。この協議会は、承認であるとか決定ではないということをご理解いただきたいと思います。

(美術館)
議事(3)平成21年度米子市美術館事業報告 説明

(美術館)
議事(4)平成22年度米子市美術館事業計画 説明

委員
郷土関係作家の育成はどういうことをしているのか

美術館

前年度につきましては、本池秀夫先生の作品展を開催したときに、本池さんの息子さんの作家を取り上げて作品を展示しました。来年度についてはまだ具体的な作家はあがってないのですが、地元で活躍されている作家さんに声掛け等させていただいて、展示室を利用して実施していきたいと考えております。

美術館長

最後に、美術館といたしましては、やはり使っていただく方に気持ちよく、使い勝手よく使っていただけるのがいいと思いますし、最初に出ましたように図書館と美術館が一体化して、カタログ等も一緒に見られるようになったらいいなとか、いろんな構想がありましたけれども、なかなかそういったあたりが難しいようです。ただこの中にも一体化して共有していくという部分が入っておりますので、金額的に落としていけて、そういった部分が可能になればいいなという期待は持っております。高増先生や高専の先生方にも、いろいろご協力いただけるといいなと思っております。お忙しい中ほんとうにありがとうございました。よろしく願いいたします。

委員

ではこれで終わりたいと思います。